

## 淡路瓦工業組合

和の伝統「瓦」の価値再発見の提案へ向け、組合員個々に支援の浸透を

### company profile

設立年：2004年

事業内容：粘土瓦（陶器瓦・いぶし瓦）製造業に関する広報・宣伝事業、指導及び教育事業、資料収集及び情報の発信、技術研究・新商品開発事業

#### ザクッと言うと **3** ポイント

1. 耐震性についての風評を払いのけ、価値の再発見につなげたい
2. 新しいことに挑戦する組合員をバックアップする体制を構えている
3. 今後とも中央会にはニーズに合った提案を期待する

### 工業組合が設立されるまで

淡路瓦工業組合は、平成16年、淡路島内の1つの工業組合と4つの協同組合を統合して設立された。兵庫県中小企業団体中央会（中央会）の支援をいかに利用されているのか、専務理事の竹澤氏に話を伺った。

阪神淡路大震災後、建物の構造自体の問題が見過ごされ、瓦の重量が家屋倒壊の主因であったかのような風評が流れた。その払しょくが急務となり淡路瓦工業組合が設立された。中央会とはそのときからの付き合いだ。



瓦が印象的な事務所概観

### 組合員には組合をどんどん利用してほしい



竹澤氏

淡路は、愛知県の三州、鳥取県の石州と並んで瓦の3大産地と呼ばれている。しかし、瓦の国内需要は減り続け、地場産業としての生き残りもかかっていた。

新しい木造、瓦の家には十分な耐震性能があると実証されていること、そして、瓦ぶき屋根は日本の風土にあっていふことを伝えたい。同時に、新商品の開発、新しい瓦の生かし方の提案を続けねばならないと竹澤氏は語る。

そのためには継続的な情報の収集と発信、そしてそれらを組合員へ浸透させることが組合の役目だとも。

中央会から補助事業の情報などを得て、組合員に合った補助金申請を案内したり講師派遣制度などを紹介したりする。メールやファックス、電話までも使い、個々の組合員へ届くよう腐心している。組合員からも組合へ積極的に働きかけてどんどん利用してほしい。

新しいことに挑戦する組合員にはバックアップを惜しまない。伝統産業ゆえの殻をやぶることも必要だと考えているからだ。新製品の提案には展示会展も必要となる。販路も見つけなければならない。また、瓦に必要な金型などの設備投資には金がかかる。これらが小規模事業には辛い。そこで、タイムリーに補助を活用できるようにサポートする。

### 瓦の価値が見直され、売り上げを伸ばすために

淡路の瓦製造には手作りの工程が残っており、多品種少量生産に向いている。品質も高く、別注にも柔軟に対応できる。

大量生産を得意とするところもあり、和型専門、寺院の瓦専門のところ、また、景観材としての瓦の生産に熱心なところもある。「淡路へ来ればなんでも揃う」ことをPRしていきたい。



新しい瓦にはこんなものも



中央会 佐藤（左）と

新商品開発と販路開拓は組合にとって永遠のテーマであり、これを継続的に行うことで業界全体も活性化すると考えている。商品に付加価値をつけ、その価値を分かってくるところへ売っていききたい。差別化を図り、瓦の価値の再発見につなげていきたいと願う。

中央会担当の佐藤はよき理解者だ。いつも丁寧で細やかな対応をしてくれると感じている。困りごとがあると佐藤に相談することも多いという。工業組合対中央会と、団体同士ではあるが個人のつながりがあってこそなのだ。これからは組合のニーズに合った支援の提案が期待されている。

### 担当者からひとこと

いぶし銀の泰然たる輝きと、連続する瓦の波が表現する柔らかなさは、日本の景観を作る重要なパーツとして世界に向けて日本文化の価値を高めていることは間違いありません。

400年の伝統を受け継ぐのと同時に、組合を中心に業界の力を集結することで製品の品質や安全性の向上、新たな市場に向けた新用途・新商品開発といった前向きな変化も日々進んでいます。中央会では専門家や異業種とのネットワークを活用して、新分野への挑戦を加速させるお手伝いをしていきます。



担当者：佐藤 拓